

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800054	事業の開始年月日	平成19年11月1日	
		指定年月日	平成19年11月1日	
法人名	株式会社 ウィズネット			
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜茅ヶ崎東2			
所在地	(〒224-0033) 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎東5-4-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【生活の質の向上】 季節に合わせた行事の開催。 今まで培ってきた事を活かせるレクリエーションの実施。 (華道・茶道・食事作り等)</p> <p>【地域との繋がり】 地域イベントへの積極的参加</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年12月16日	評価機関 評価決定日	平成29年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇家族に配慮した運営 ・家族会を年6回開催し、家族が参加し易いように各種行事を設けている。 ・毎月事業所の状況を伝えるために、写真を多く載せたA4版の「たより」や居室担当職員が利用者の様子を記した「一言通信」を作成し、家族に送っている。 ・家族会では各家族が話し合う時間を増やして、家族が率直に不安などを話し合い、お互いの悩みの解消や解決策の示唆などへの一助になっている。 ◇年度事業所目標と年間計画に沿った運営 ・平成28年度の目標「笑顔で心穏やかに安心して過ごせる環境作りと介護力の向上」を掲げ、理念と共に日々のケアに活かしている。神社に初詣に行ったり、バリアフリーが整っている回転すし店での食事を楽しみ、安心と充足感を与えている。 ・年度初めに月別のホーム行事や事業計画を決め、利用者・家族に周知して、予定した行事や家族会・避難訓練・水害訓練等を着実に実施して信頼を得ている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ・転倒事故防止策として、居室にソフトマットを敷き、転倒のおそれのある利用者のベッド下にセンサーを設置して、職員が動きを察知できるようにしている。 ・利用者同士で「和の会」をつくり、茶道・華道の時間を設け、生け花や抹茶と和菓子を楽しむ機会を創出している。 ・毎月、利用者共同による食事作り（4月はあんかけ焼きそば・餃子と中華スープ、12月は餃子とポテトサラダ・青菜のお浸しなど）を支援している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みんなの家・横浜茅ヶ崎東2
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や洗面台等主だった部分に理念を掲示し日常業務の中で実践出来るよう心掛けている。	・事業所の理念は「入居者一人ひとりの自由と意思の尊重、その人らしい生活の継続を支援する、笑顔溢れる明るいホーム 一人ひとりに感謝の気持ちを」であり、職員室に掲示し、折にふれ職員が話題にして日々のケアに心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントへ参加している。芋掘り等施設の駐車場等の場所提供も行っている。事業所内のイベントにもご近隣の方に声を掛けている。また、毎年近隣中学校の職場体験の受け入れも行っている。	・茅ヶ崎東町内会に入会し、地域の情報は回覧板で得ている。獅子舞が事業所に来るほか、夕涼み会、芋ほり・芋煮会に参加している。 ・芋ほり会では、事業所の駐車場を開放するほか、事業所の夏祭りや避難訓練などでは近隣住民にポスティングで呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて行っている行事にお誘いをしたり、中学生の職場体験の受け入れを行っている。また、近隣の認知症カフェのオープンに当たって認知症についてお話しをする等している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、年6回開催している。活動内容や事故等の報告を行い、ご意見を頂いている。ご意見等は会議等で議題に出し、サービスの向上に活かしている。	・運営推進会議は自治会長、民生委員、家族代表と地域包括センター職員、事業所長で構成し、2か月毎に開いている。平日開催のため、地元・家族代表委員の出席率は低い。 ・会議では活動報告、今後の予定、意見交換が主である。	・運営推進会議は年6回、平日に開催していますが、出席状況は芳しくありません。年間計画立案時に、できるだけメンバーの出席が可能な日を選定することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の担当者と定期的に連絡を取っている。また、区の恒例障害支援課には運営推進会議の議事録を送付している。	・都筑区高齢・障害支援課に運営推進会議の議事録を送っています。保護課とは利用者に関する手続き等で密接に連絡を取り合っている。 ・地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、行政や地域情報の報告・助言を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を月に1回開催し、身体拘束がなかったか等話合っている。事業所内では「身体拘束ゼロ推進」を掲げ、意識出来るようにしている。参加出来なかった職員には議事録を回覧している。	・毎月スタッフ会議で、身体拘束に関し日々のケアで抵触していないか話し合う時間を設け、職員の意識づけに力を入れている。 ・フローアは施錠せず、玄関は安全対策のため、インターホンによりドアの開閉をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月に1回開催し、虐待がなかったか話合っている。参加出来なかった職員には議事録を回覧している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を設けている。その後、他職員へ伝達研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書のサンプルを送付し確認をして頂いてから契約を行っている。契約時にはしっかりと説明し質問等も交えながら理解、納得をして頂けるよう図っている。疑問・不安等の対応窓口は公開・開放している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回家族会を開催している。面会時等でもお声掛けしご意見を頂いている。事業所のメールアドレスも公開しており、いつでもご相談して頂ける状態にしている。	・運営推進会議の開催の無い月（2か月毎）に家族会を開催している。家族会で家族が話し合う時間を増やし、家族の不安を出し合い、悩みを解消し、解決策を得ている。 ・家族向けに毎月「たより」や「一言通信」を発行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、フロア会議にて意見、提案出来る機会を設けている。	・各会議の中で職員の意見・要望を聞く時間を設けているほか、日頃から管理者とスタッフとのコミュニケーションを大事にしている。 ・全体会議、フロア会議で検討し、職員の意見により、トイレ誘導や車椅子のブレーキの掛け方など、安全に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度があり、年2回の人事考課を実施している。職員がリフレッシュ出来るよう休憩時間を捻出出来るよう心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修機関があり、職階別・自己啓発として研修に参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会にて社内の他事業所の方と交流出来る機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に不安や困っている事や要望等をお聞きするよう心掛けている。入居前にカンファレンスを実施し暫定ケアプランを作成している。入居日にご意向を再度お聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査時に不安や困っている事、要望等をお聞きするよう心掛けている。いつでも相談できる環境・信頼関係を気づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで提供出来るサービスや必要とされているサービスの設kを行っている。提供出来ないサービスが必要な場合は他の介護サービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するという考えを忘れず、日常の鍛冶や手伝い等を一緒に行い、助け合いの関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や出来事は定期的に書面や面会時にお伝えしている。必要に合わせてご家族様にお声掛けの協力等お願いし共にご本人様を支えていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来設された場合はゆっくりとお話し出来るよう支援している。手紙や年賀状を出したり、電話にてお話し出来る機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への知人の訪問が減り、利用者の幼少期の話題が多くなってきている。家族の協力を得て、利用者に思い出が復元できるように語りかけて支援している。 ・手紙や年賀状は、利用者の思いを聞いて作成の支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係野間に入るなどしながらより良い関係作り、日々を快適に過ごして頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や入院への転居の場合は情報提供等を実施している。転居後に郵便物等が届いた場合はお手紙を添えて郵送させて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけご本人様の意思に任せご自由に過ごして頂き、個別の対応を心掛けている。日々の生活の中だけでなく定期的に希望や要望等に耳を向け把握に努めている。困難な場合は仕草や表情等から汲み取り支援を行っている。	・入所前に利用者宅に訪問し、本人・家族から思いや意向を十分に聴取し、入所後は、日々の利用者の言動などから意向を把握している。 ・把握した情報は日誌や個人記録に記入のほか、申送りをし、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査にて生活歴等をお伺いしている。入居後も日々の会話や仕草等生活の中でお話しを伺い把握に努めている。また、ご家族様にもお話しを伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を細やかに観察し生活記録や特記事項などは申し送り等で情報共有を行うなどして状況野把握に努めている。また、月1回の会議・カンファレンス等にて心身の状態の再確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、フロア会議にて支援の方法について話し合い、ご利用者様、ご家族様のご意向等も考慮し介護計画に反映している。介護計画は3カ月、6カ月、状態変化時に定期的にモニタリング、アセスメントを実施している。	・本人・家族の意向、利用者の居室担当者の意見、計画の達成度・ケース記録や医師の意見を参考に、カンファレンスで集約し、介護計画を作成している。 ・計画は3か月、6か月毎に見直し、変化があれば、都度改訂している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践に関しては個別の生活記録に記入している。特記事項等は口頭だけでなく申し送りノートを活用するなどして情報共有を行っている。生活記録には介護計画に沿った内容を記入しナンバリングを行い、介護計画に沿ったケアになっているのか確認し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリマッサージやシニアセラピー、訪問理美容、訪問看護などニーズに対応し様々なサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や社会福祉協議会等との関係を大切にし、ご利用者様が安心して楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科による月2回の訪問診療を受け医療関係者とは24H体制で連絡が取れる状態になっている。状態により臨時往診等の対応もお願いしている。要望により専門医（皮膚科、整形外科、眼科、精神科等）の案内も行っている。	・利用者全員が協力医療機関を主治医としている。主治医・歯科医の訪問は月2回ある。専門医への受診は家族の付き添いをお願いしている。 ・医療連携看護師の訪問が週1回あり、変化があれば直ちに協力医に連絡を取っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が週1回訪問し健康チェックを行っている。看護師の訪問時は口頭での申し送りだけでなく、個別の連絡帳を活用し気付き等を伝えている。異変時等は看護師からかかりつけ医に報告・連絡を取りご利用者様への支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し病院関係者との情報提供を行っている。また、入院時はこまめに面会に行き、病院関係者との情報交換に努めている。退院後は安心した生活を送って頂けるよう訪問看護を入れるなどして環境を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「看取り介護」「終末期支援」に関する方針をお伝えし、今後の方針をご本人様も含めご家族様で話し合いを行って頂けるようお声掛けしている。重度化した場合はご家族様、医師、看護師、事業所関係者で話し合いご家族様の意向をくみ取り今後の方針を決めている。職員への不安解消等の為看護師による勉強会を実施している。	・本人・家族に入所時に、重度化や終末期に対する事業所の方針を説明し同意を得ている。重度化が進んだ場合は家族と話し合い、対応している。 ・重度化・終末期の対応について医師・看護師による職員研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防署による緊急時の訓練を行っている。急変時のマニュアル作成も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。ご近隣にも避難訓練時には参加して頂けるようお声を掛けている。訓練後は反省会等を行い次回へ繋げている。	・今年度の避難訓練は8月と12月に行った。訓練として、夜間想定、消火器の使用、喉つまりの際のタッピング指導を受けている。訓練には近隣住民が参加している。 ・備蓄品は食料品、救急品等を事業所内に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等の注意を声だし確認してから業務に入るよう心掛けている。会議等でプライバシーを損ねていないか等話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者の行動や気持ちを抑制する事なく傾聴に努め、利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるように、見守り支えている。 ・職員ミーティングで、声かけの際の注意点やスピーチロックなどを話し合い、日頃のケアに活かしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご自分で自己決定して生活して頂けるよう支援している。希望に沿わなくても希望に近付けられる様職員で話し合いを行っている。また、自己決定や希望、思いが引き出せるよう選択肢のあるお声掛けをさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の規則は設けていない。一人一人のペースに合わせてお好きに生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみには気を配るようにしている。髭そりやお化粧品等希望される方には環境を整えるようにしている。外出等の支援の時は普段と違いおしゃれが出来るよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけまでご利用者様と職員が協力し行っている。また、「食事作りの日」を設けご希望に合ったメニューを一緒に作る機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は本社所属の管理栄養士監修のもと食材会社から配達され、調理は専門職員が行っている。 ・利用者は野菜を切ったり味付けしたり炒めたり、出来ることに参加している。ホットプレートでの食事作りは人気メニューの一つである。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作りを行っている。一人一人に合った食事形態で提供を行い、摂取量の把握を行っている。摂取量が少ない方に関しては食べやすい、飲みやすい物を提供し少しでも美味しく楽しんで召し上がって頂けるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士による指導のもと、毎食後に口腔ケアを行っている。また、食事前に口腔体操を取り入れ、美味しく食事が取れるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握している。その方に合わせた声掛けや誘導を行いトイレ内にて排泄出来るよう支援している。	・利用者全員に排泄チェック表を参考に声をかけ、トイレでの排泄を支援している。 ・トイレへの誘導時には、周囲に解らない様に小声で声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう、飲食物の工夫を行っている。散歩や体操などで適度に身体を動かしていただけるよう支援も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の希望も尊重し入浴出来るよう支援している。身体機能に応じてリフト浴等の対応も行っている。	・週2回、入浴を支援している。日常的に入浴剤を使用し、季節の菖蒲湯、ゆず湯を提供している。 ・脱衣室にカーテンを設置してプライバシーに配慮している。 ・入浴を忌避する利用者には、表情やタイミングを見て声をかけ、入浴へ誘導する工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にご利用者の意思を尊重し休息を取れるよう支援している。夜間に関してが消灯時間はなく、好きな時間に就寝して頂いている。入床時の照明の工夫を行い、安眠できる環境を整えている。定期的に巡視を行い、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、服薬支援を行っている。薬剤情報はいつでも目を通す事が出来るよう事務所に置いている。また、一人一人に合った方法で服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合ったレクリエーションの実施や出来る限り培ってきた経験が活かせるよう毎日の役割りや楽しみ、張り合い、喜びが感じられたり気分転換が出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や季節に合わせた外出イベント等を行い、戸外に出掛けられる様支援している。また、ご家族様と共に外出される事もある。	・2～3日に1回、散歩に出ている。本人の希望により、家族と買い物に外出することがある。 ・初詣に毎年出かけ、年2回程度は回転寿司での食事のほか、週1回来る移動パン屋での買い物などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の移動パン屋や外出時等好きな物を購入や飲食して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やお手紙を送る等支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合った装飾をご利用者様と共に作成し飾っている。居室やトイレ等は場所が分かりやすいと大きな文字で表示している。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温は、体感を参考に適宜調整し、湿度は40%を維持している。 ・生活感、季節感を重視して室内を飾り、利用者が落ち着いて過ごせるように席を工夫している。 ・夜間は室内のライトを消し、安眠できるようにしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とは別の場所に椅子やソファを設置し自由に過ごせる環境を作っている。指定された座席にこだわらず、その日の状態や状況に応じて帰られるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子や机、花や写真等馴染みある物を持ってきていただき、居心地よく生活していただけるよう環境を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、ベット、寝具、カーテン、クローゼット、洗面台が設置されている。 ・利用者は、机、写真、テレビなどを持ち込み、壁には自作作品等を掲示して、好みの部屋にしている。 ・居室担当職員と利用者がいっしょに掃除している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の把握が出来るよう表札や掲示を行っている。また、動線にも考慮し居間や居室等安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。また、各居室には安全の為マットを敷かせて頂いている。		

事業所名	みんなの家・横浜茅ヶ崎東2
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や洗面台等主だった部分に理念を掲示し日常業務の中で実践出来るよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントへ参加している。芋掘り等施設の駐車場等の場所提供も行っている。事業所内のイベントにもご近隣の方に声を掛けている。また、毎年近隣中学校の職場体験の受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所にて行っている行事にお誘いをしたり、中学生の職場体験の受け入れを行っている。また、近隣の認知症カフェのオープンに当たって認知症についてお話しをする等している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、年6回開催している。活動内容や事故等の報告を行い、ご意見を頂いている。ご意見等は会議等で議題に出し、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の担当者と定期的に連絡を取っている。また、区の恒例障害支援課には運営推進会議の議事録を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を月に1回開催し、身体拘束がなかったか等話合っている。事業所内では「身体拘束ゼロ推進」を掲げ、意識出来るようにしている。参加出来なかった職員には議事録を回覧している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を月に1回開催し、虐待がなかったか話合っている。参加出来なかった職員には議事録を回覧している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を設けている。その後、他職員へ伝達研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書のサンプルを送付し確認をして頂いてから契約を行っている。契約時にはしっかりと説明し質問等も交えながら理解、納得をして頂けるよう図っている。疑問・不安等の対応窓口は公開・開放している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回家族会を開催している。面会時等でもお声掛けしご意見を頂いている。事業所のメールアドレスも公開しており、いつでもご相談して頂ける状態にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、フロア会議にて意見、提案出来る機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度があり、年2回の人事考課を実施している。職員がリフレッシュ出来るよう休憩時間を捻出出来るよう心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修機関があり、職階別・自己啓発として研修に参加出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会にて社内の他事業所の方と交流出来る機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に不安や困っている事や要望等をお聞きするよう心掛けている。入居前にカンファレンスを実施し暫定ケアプランを作成している。入居日にご意向を再度お聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査時に不安や困っている事、要望等をお聞きするよう心掛けている。いつでも相談できる環境・信頼関係を気づけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで提供出来るサービスや必要とされているサービスの設kを行っている。提供出来ないサービスが必要な場合は他の介護サービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するという考えを忘れず、日常の鍛冶や手伝い等を一緒に行い、助け合いの関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や出来事は定期的に書面や面会時にお伝えしている。必要に合わせてご家族様にお声掛けの協力等お願いし共にご本人様を支えていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来設された場合はゆっくりにとお話し出来るよう支援している。手紙や年賀状を出したり、電話にてお話し出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係野間に入るなどしながらより良い関係作り、日々を快適に過ごして頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や入院への転居の場合は情報提供等を実施している。転居後に郵便物等が届いた場合はお手紙を添えて郵送させて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけご本人様の意思に任せご自由に過ごして頂き、個別の対応を心掛けている。日々の生活の中だけでなく定期的に希望や要望等に耳を傾け把握に努めている。困難な場合は仕草や表情等から汲み取り支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査にて生活歴等をお伺いしている。入居後も日々の会話や仕草等生活の中でお話しを伺い把握に努めている。また、ご家族様にもお話しを伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を細やかに観察し生活記録や特記事項などは申し送り等で情報共有を行うなどして状況野把握に努めている。また、月1回の会議・カンファレンス等にて心身の状態の再確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス、フロア会議にて支援の方法について話し合い、ご利用者様、ご家族様のご意向等も考慮し介護計画に反映している。介護計画は3カ月、6カ月、状態変化時に定期的にモニタリング、アセスメントを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践に関しては個別の生活記録に記入している。特記事項等は口頭だけでなく申し送りノートを活用するなどして情報共有を行っている。生活記録には介護計画に沿った内容を記入しナンバリングを行い、介護計画に沿ったケアになっているのか確認し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリマッサージやシニアセラピー、訪問理美容、訪問看護などニーズに対応し様々なサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や社会福祉協議会等との関係を大切にし、ご利用者様が安心して楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科による月2回の訪問診療を受け医療関係者とは24H体制で連絡が取れる状態になっている。状態により臨時往診等の対応もお願いしている。要望により専門医（皮膚科、整形外科、眼科、精神科等）の案内も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が週1回訪問し健康チェックを行っている。看護師の訪問時は口頭での申し送りだけでなく、個別の連絡帳を活用し気付き等を伝えている。異変時等は看護師からかかりつけ医に報告・連絡を取りご利用者様への支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し病院関係者との情報提供を行っている。また、入院時はこまめに面会に行き、病院関係者との情報交換に努めている。退院後は安心した生活を送って頂けるよう訪問看護を入れるなどして環境を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「看取り介護」「終末期支援」に関する方針をお伝えし、今後の方針をご本人様も含めご家族様で話し合いを行って頂けるようお声掛けしている。重度化した場合はご家族様、医師、看護師、事業所関係者で話し合いご家族様の意向をくみ取り今後の方針を決めている。職員への不安解消等の為看護師による勉強会を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防署による緊急時の訓練を行っている。急変時のマニュアル作成も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。ご近隣にも避難訓練時には参加して頂けるようお声を掛けている。訓練後は反省会等を行い次回へ繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け等の注意を声だし確認してから業務に入るよう心掛けている。会議等でプライバシーを損ねていないか等話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご自分で自己決定して生活して頂けるよう支援している。希望に沿わなくても希望に近付けられる様職員で話し合いを行っている。また、自己決定や希望、思いが引き出せるよう選択肢のあるお声掛けをさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の規則は設けていない。一人一人のペースに合わせてお好きに生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみには気を配るようにしている。髭そりやお化粧等希望される方には環境を整えるようにしている。外出等の支援の時は普段と違いおしゃれが出来るよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけまでご利用者様と職員が協力し行っている。また、「食事作りの日」を設けご希望に合ったメニューを一緒に作る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作りを行っている。一人一人に合った食事形態で提供を行い、摂取量の把握を行っている。摂取量が少ない方に関しては食べやすい、飲みやすい物を提供し少しでも美味しく楽しんで召し上がって頂けるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士による指導のもと、毎食後に口腔ケアを行っている。また、食事前に口腔体操を取り入れ、美味しく食事が取れるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握している。その方に合わせた声掛けや誘導を行いトイレ内にて排泄出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう、飲食物の工夫を行っている。散歩や体操などで適度に身体を動かしていただけるよう支援も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様の希望も尊重し入浴出来るよう支援している。身体機能に応じてリフト浴等の対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご利用者様の意思を尊重し休息を取れるよう支援している。夜間に関してが消灯時間はなく、好きな時間に就寝して頂いている。入床時の照明の工夫を行い、安眠できる環境を整えている。定期的に巡視を行い、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の指導のもと、服薬支援を行っている。薬剤情報はいつでも目を通す事が出来るよう事務所内に置いている。また、一人一人に合った方法で服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合ったレクリエーションの実施や出来る限り培ってきた経験が活かせるよう毎日の役割りや楽しみ、張り合い、喜びが感じられたり気分転換が出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や季節に合わせた外出イベント等を行い、戸外に出掛けられる様支援している。また、ご家族様と共に外出される事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の移動パン屋や外出時等好きな物を購入や飲食して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話が出来る体制を取っている。年賀状やお手紙を送る等支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合った装飾をご利用者様と共に作成し飾っている。居室やトイレ等は場所が分かりやすいとら大きな文字で表示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とは別の場所に椅子やソファを設置し自由に過ごせる環境を作っている。指定された座席にこだわらず、その日の状態や状況に応じて帰られるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子や机、花や写真等馴染みある物を持ってきていただき、居心地よく生活していただけるよう環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の把握が出来るよう表札や掲示を行っている。また、動線にも考慮し居間や居室等安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。また、各居室には安全の為マットを敷かせて頂いている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 みんなの家・横浜茅ヶ崎東2

作成日 平成29年3月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を年6回、平日に開催しているが、出席状況が芳しくない。	運営推進会議のメンバー出席状況を向上する。	会議開催日立案時に、できるだけメンバーの出席が可能な日を選定する。	1年
2					
3					
4					
5					

項目番号：自己評価の項目番号を記入